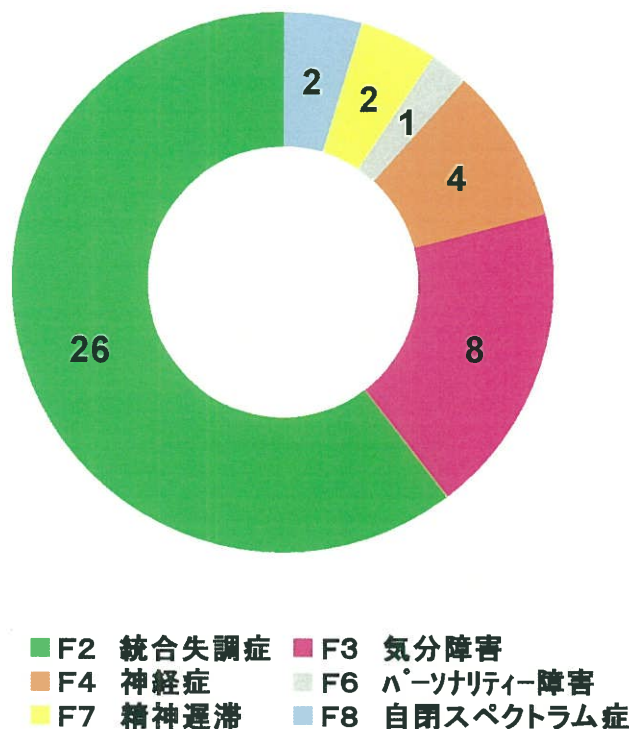


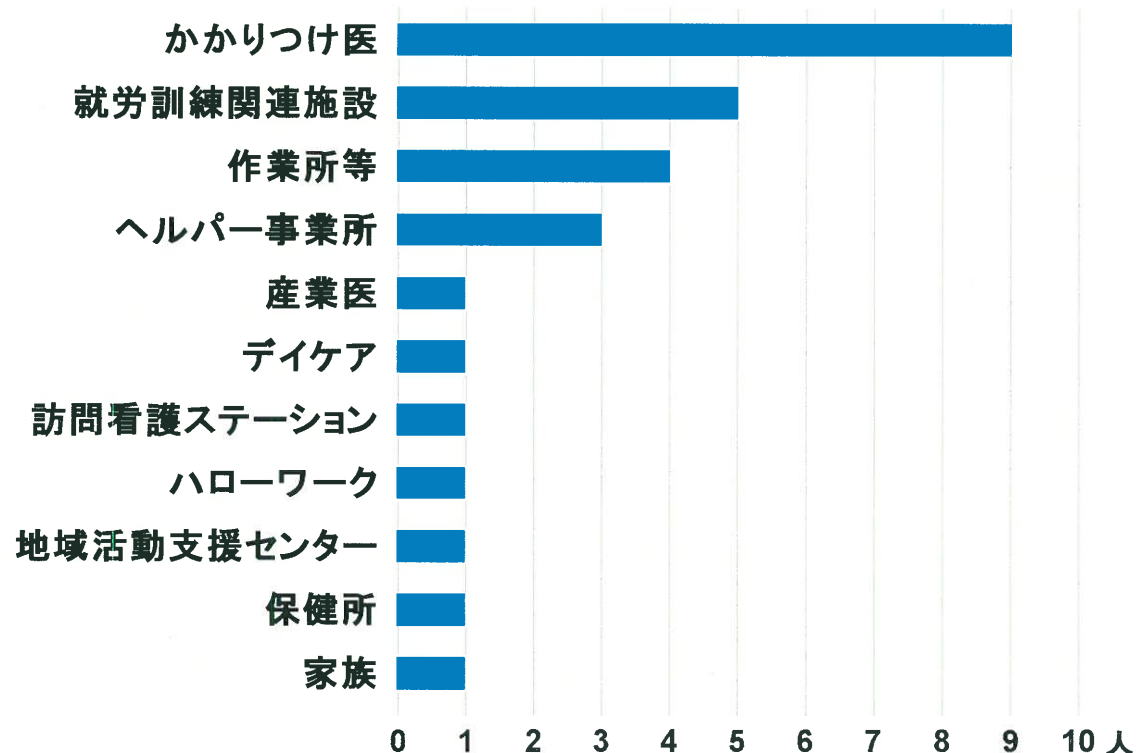
～ アンケート協力者 43 名の疾患内訳 ～



43名のアンケート協力者のうち、約60%の方が統合失調症・約20%の方が気分障害・約10%の方が神経症でした。残り10%はパーソナリティー障害・精神遅滞・自閉症スペクトラム症の方でした。うつ病の方の利用を検討する時は主治医を交え、よく検討する必要があります。

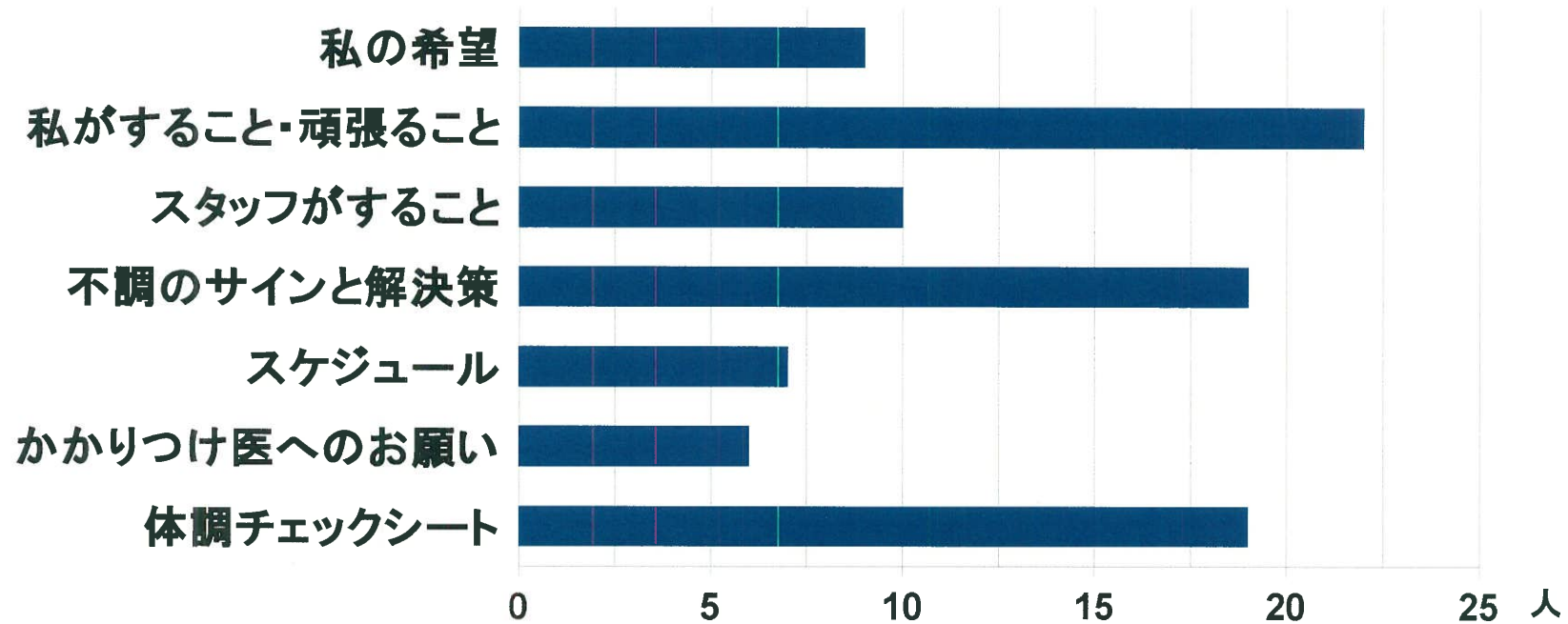
～ アンケート協力者 43 名が利用している機関 ～

(法人外・複数回答)



法人外に利用している機関について回答頂きました。かかりつけ医には内科・皮膚科・整形外科などが含まれており、中には手術後の創部フォローのために利用していた方もいました。他、就労訓練関連施設や生活相談および生活支援を行なう場面で利用しているようです。

～ 地域連携パスの役立つ項目(複数回答)～
利用者アンケート結果



地域連携パスは

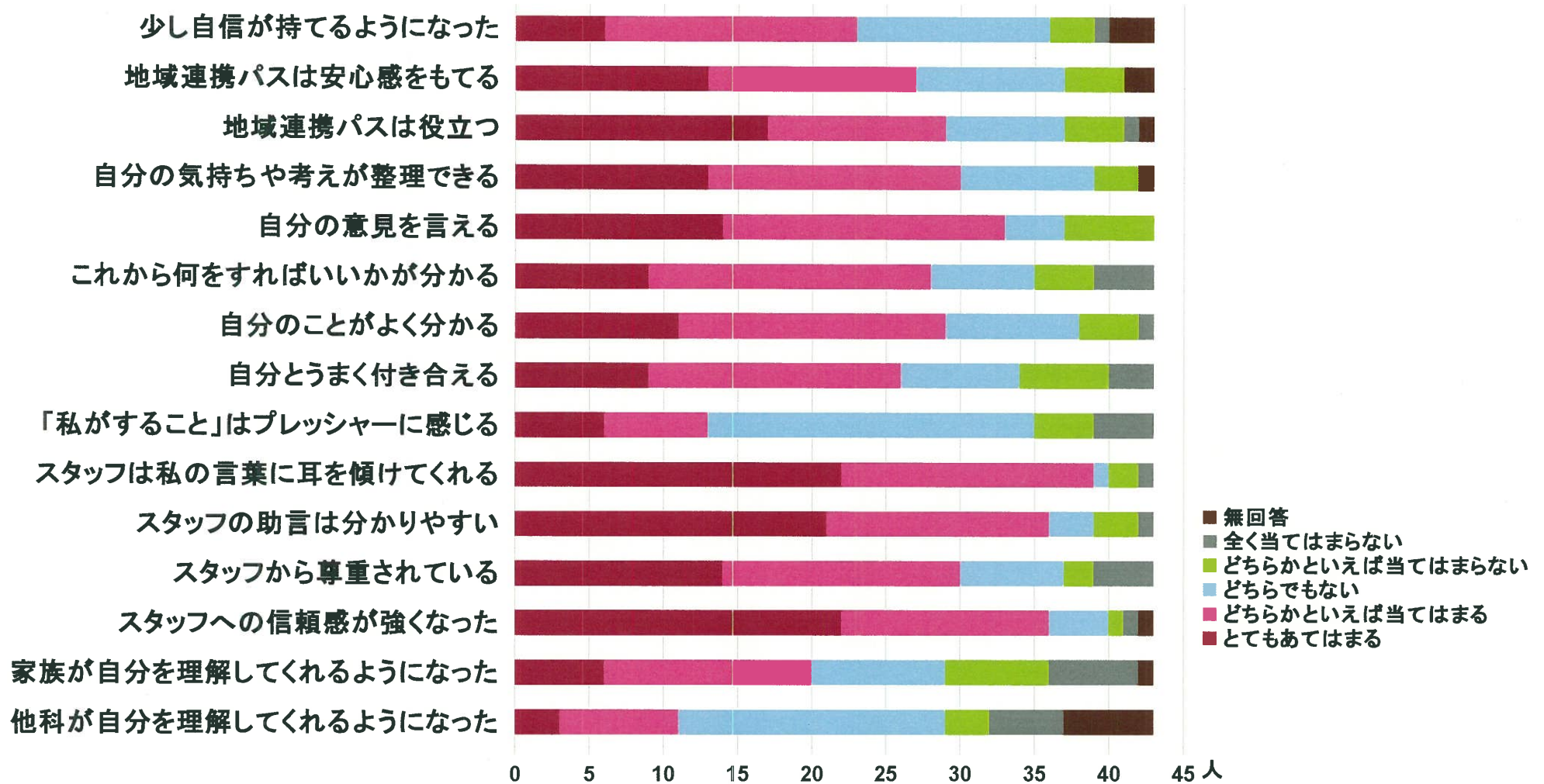
- 暮らしの希望や症状への対処など、利用者が自己理解を深めるシート(上6項目)
- 日々の体調チェックと対処・スタッフのケアプランを記載するシート(下1項目)

この2種類のシートを主に活用します。

利用者は自己理解を深めるシートの”私がすること・頑張ること””不調のサインと対処”の項目と日々の”体調チェックシート”を特に活用していることがわかりました。

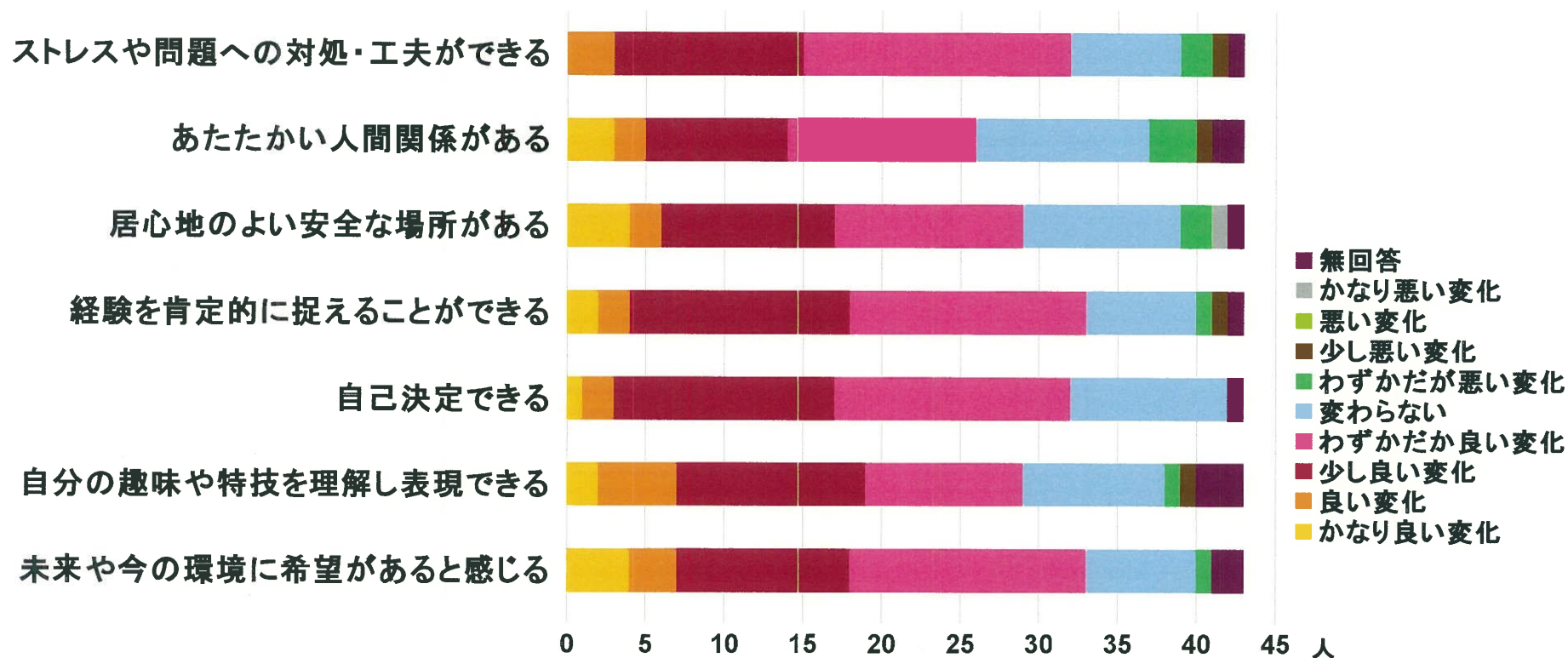
また生活習慣病などでかかりつけ医がある方には、”かかりつけ医へのお願い”が役に立っていることがわかりました。

～ 地域連携パスの使い心地について ～ 利用者アンケート結果



地域連携パスは利用者自身が自己理解を深め、自身に取り組むことや支援者に伝えたいことを整理し、行動を助けます。利用者の声に耳を傾け、わかりやすい助言を提供していることや支援者への信頼が高まっていることがわかりました。

～ 地域連携パス活用前後の心理的变化 ～ 利用者アンケート結果



上記7つの項目は在宅生活において「自分らしい暮らしを回復するため」に必要な項目とされています。地域連携パス活用後は自己決定力・課題への対処力などが向上し、経験を肯定的に捉える機会が増えます。同時に地域連携パスがコミュニケーションツールとなって、居心地のよさや安全感・あたたかい人間関係を抱きかけとなるようです。日々の暮らしへの満足感・成功体験が増えれば将来への希望も少しずつ高まります。地域連携パスのみでこの結果が生じることはないと思いますが、パス活用前後に利用者が感じている変化をアンケート結果として掲載しました。